

教育遺産の世界遺産登録を目指す三市長共同声明

先人が築き、遺した歴史とその歴史的資産は、住民の伝統や文化に浸透し、都市づくりにおいても重要な役割を果たしてきたところであり、新たな文化を創造していくうえでも、後世に引き継ぐべき重要な資源であります。

日本最大の藩校・弘道館（茨城県水戸市）、日本現存最古の学校・足利学校（栃木県足利市）、日本最大の私塾・咸宜（かんぎ）園（大分県日田市）は、地域の歴史資源であると同時に、日本の教育の形成過程と特質を顕著に示し、語り継いでいくうえで、特に重要な教育遺産であります。

近世日本は、当時の世界各国と比較して高い教育環境を整え、庶民も読み書きができるほど教育が普及しました。当時来日した外国人の多くはこれを高く評価し、明治維新後、日本が近代国家として急速な発展を遂げた大きな要因ともなりました。

資源に乏しい日本が今日の社会を築くことができたのも、「教育立国」と呼ばれるほど教育の振興に大きな力を傾け、未来への展望を切り拓いてきたからにほかなりません。

このような観点から、三市は、これまでの世界遺産には例のない「教育遺産」というテーマのもと、専門家の協力を得ながら、広域連携による取組を推進してきました。

本年は、世界遺産条約採択 40 周年という節目の年を迎えることから、これまでの三市の取組成果を礎とし、連携・協力体制を更に深め、一体的な事業の展開を図るため、本日、教育遺産世界遺産登録推進協議会を設立いたしました。

今後、三市の英知を一層結集し、国際的な視野から、教育遺産の価値や意義に関する十分な検証を進めるとともに、市民の皆様にも応援をいただきながら、世界に誇るべき教育遺産の価値を国内外に発信し、かけがえのない人類共通の遺産として、未来に伝えていくためにも、世界遺産登録を目指してまいります。

平成 24 年 11 月 18 日

水戸市長 高橋 靖

足利市長 大豆生田 実

日田市長 原田 啓介